

令和5年(2023年)7月 18 日

市内介護保険事業所 管理者様

横須賀市福祉こども部介護保険課長

ケアプランデータ連携システムの導入意向に関するアンケートの結果について

日頃から横須賀市の介護保険行政にご協力を賜りありがとうございます。

さて、この度はケアプランデータ連携システムの導入意向に関するアンケートに回答いただきありがとうございます。アンケート結果についてまとめましたので、別紙にてご確認ください。

今後は、アンケート結果を参考に、ケアプランデータ連携システムの普及について検討を進めてまいります。今後とも、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

事務担当

横須賀市民生局福祉こども部介護保険課給付係 川口

電話番号:046-822-8253

FAX 番号:046-827-8845

ケアプランデータ連携システムの導入意向に関するアンケートの集計結果について

1. アンケート概要

(1) アンケート名

ケアプランデータ連携システムの導入意向に関するアンケート

(2) アンケート実施時期

令和5年5月24日(水)～6月30日(金)

(3) アンケートの目的

ケアプランデータ連携システムの導入状況を把握することで、ケアプランデータ連携システム推進のための施策の参考にすること

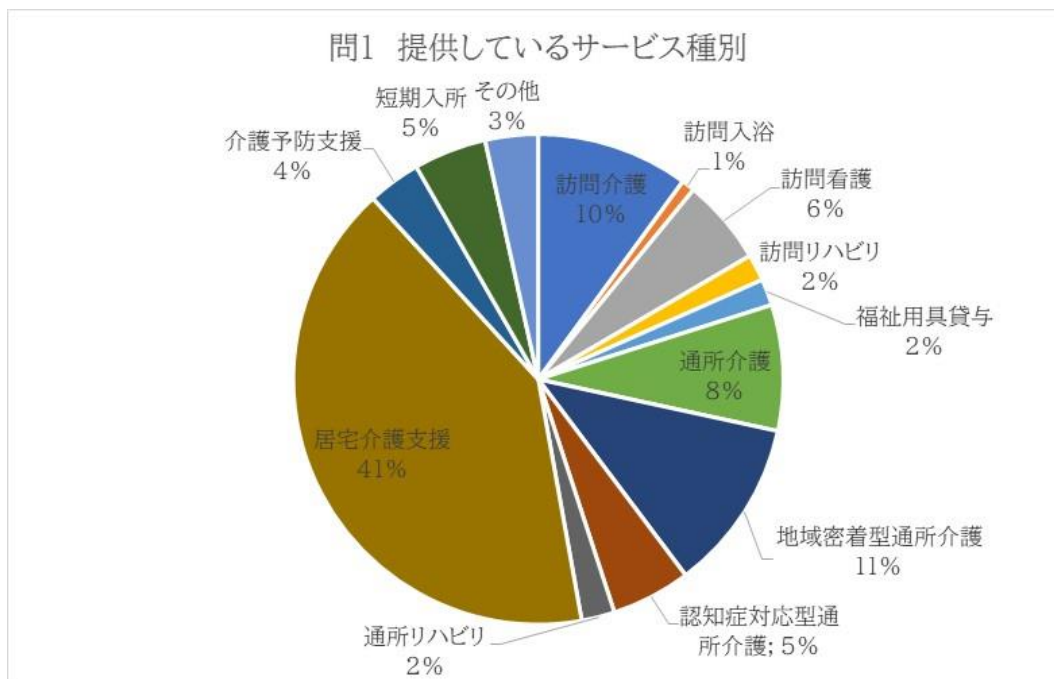
(4) アンケート回答数 199件（回答率 32.1% ※R5.6時点の事業所数基準）

2. アンケート結果

問1 提供しているサービス種別を回答してください

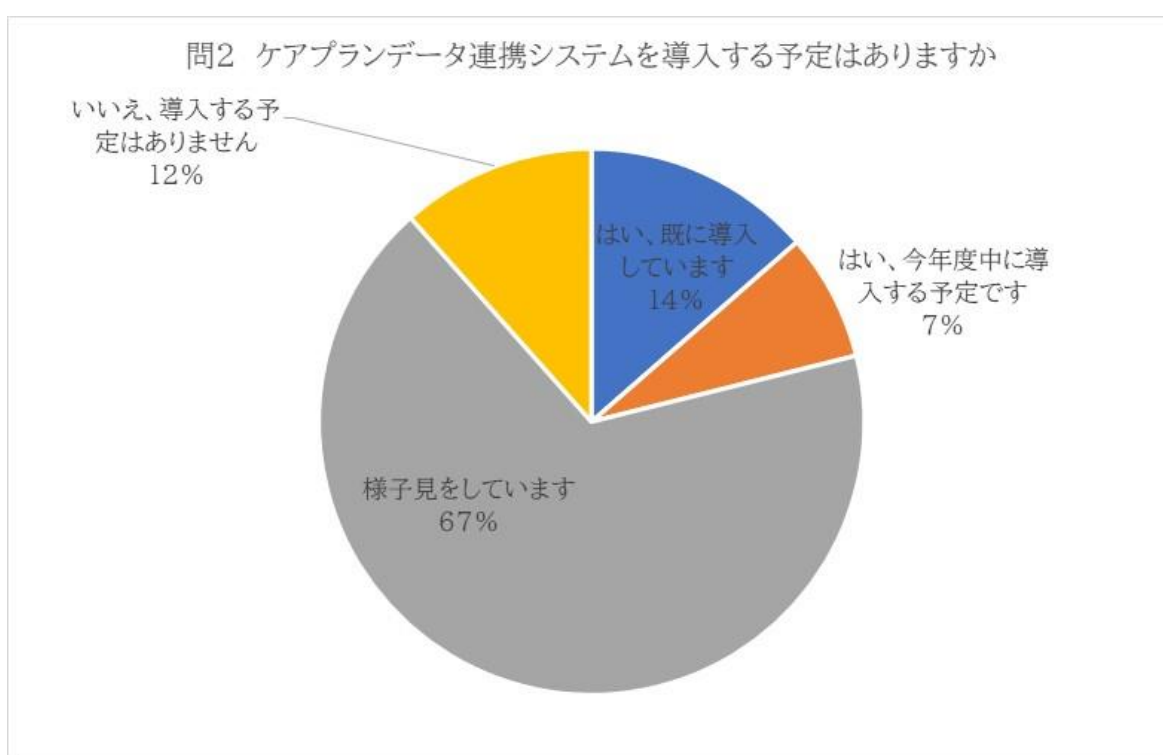
(施設サービスはその他に分類。複数回答しているものはそれぞれ振り分けた)

サービス種別	回答件数
訪問介護	23
訪問入浴	2
訪問看護	13
訪問リハビリ	4
福祉用具貸与	4
通所介護	19
地域密着型通所介護	26
認知症対応型通所介護	12
通所リハビリ	5
居宅介護支援	94
介護予防支援	8
短期入所	11
その他	8



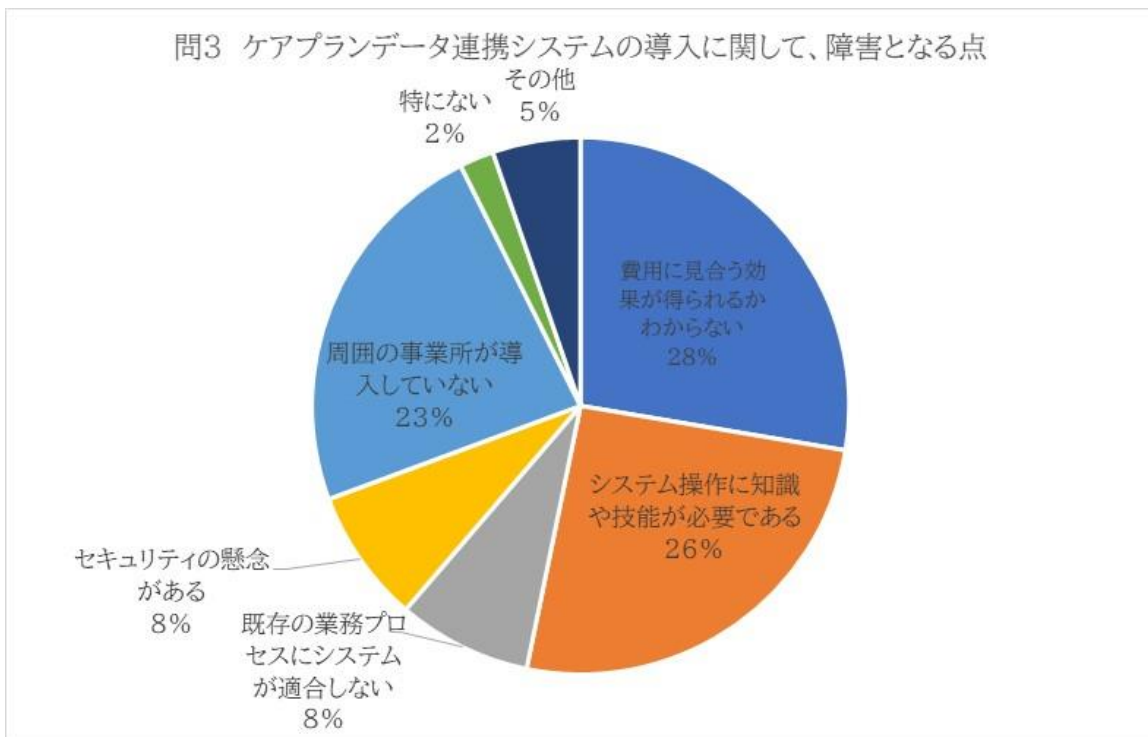
問2 ケアプランデータ連携システムを導入する予定はありますか

回答	回答件数
はい、既に導入しています	27
はい、今年度中に導入する予定です	15
様子見をしています	134
いいえ、導入する予定はありません	23



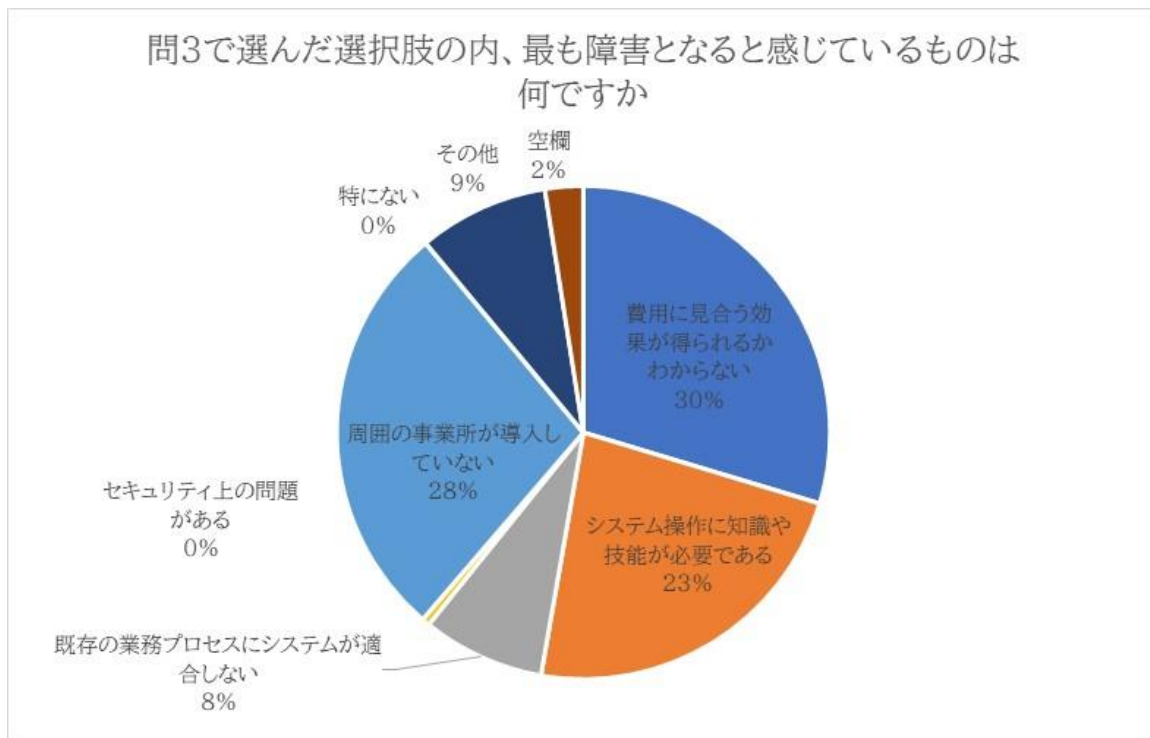
問3 ケアプランデータ連携システムの導入に関して、障害となる点についてお選びください

回答	回答件数
費用に見合う効果が得られるかわからない	120
システム操作に知識や技能が必要である	111
既存の業務プロセスにシステムが適合しない	35
セキュリティの懸念がある	35
周囲の事業所が導入していない	101
特にない	9
その他	23



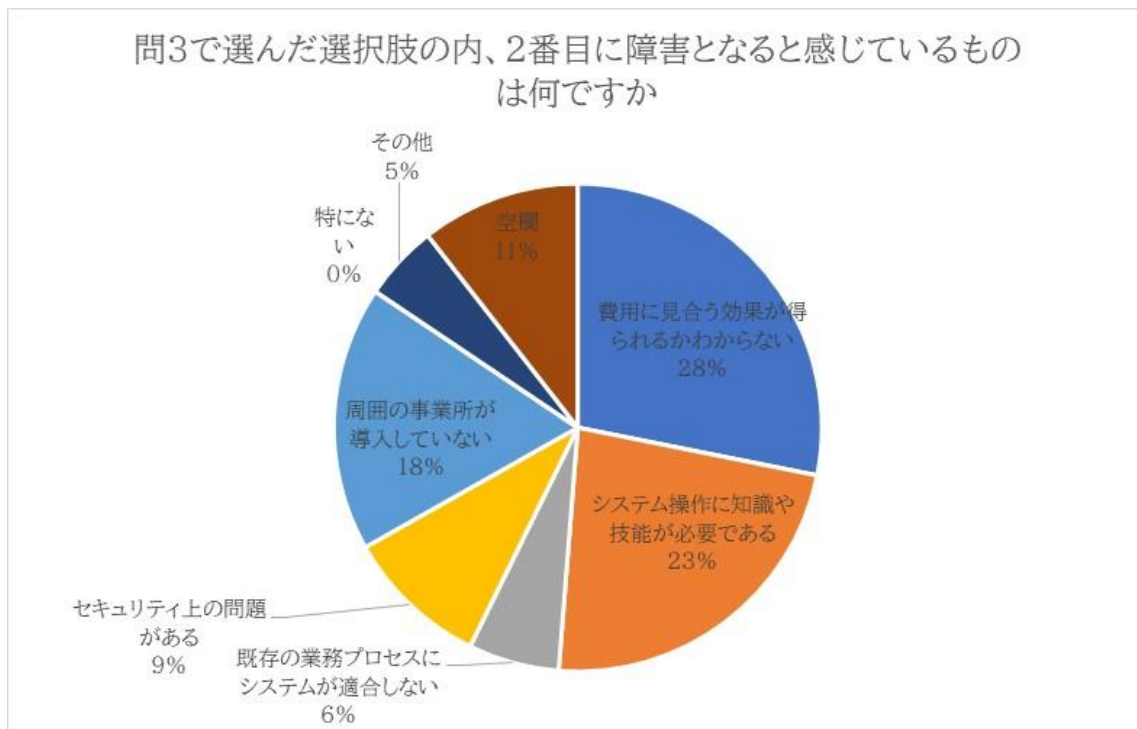
問3で選んだ選択肢の内、最も障害となると感じているものは何ですか

回答	回答件数
費用に見合う効果が得られるかわからない	59
システム操作に知識や技能が必要である	46
既存の業務プロセスにシステムが適合しない	16
セキュリティの懸念がある	1
周囲の事業所が導入していない	55
特にない	0
その他	17
無回答	5



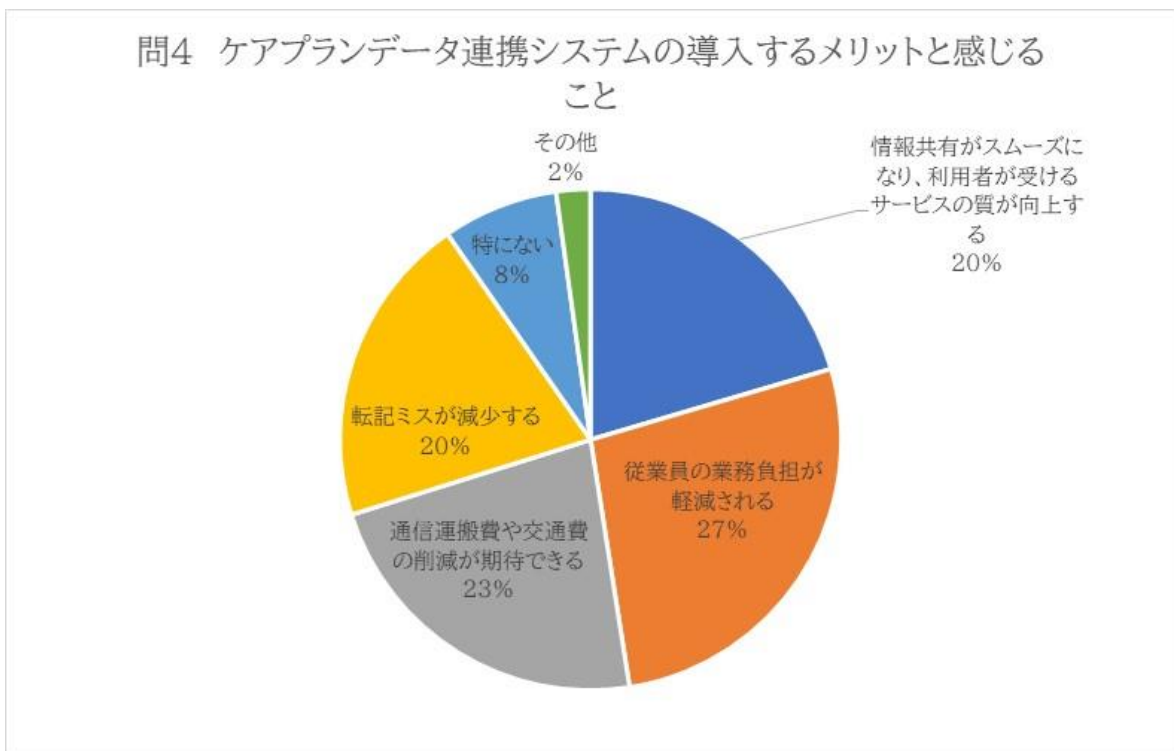
問3で選んだ選択肢の内、2番目に障害となると感じているものは何ですか

回答	回答件数
費用に見合う効果が得られるかわからない	56
システム操作に知識や技能が必要である	46
既存の業務プロセスにシステムが適合しない	12
セキュリティの懸念がある	19
周囲の事業所が導入していない	35
特にな	0
その他	10
無回答	21



問4 ケアプランデータ連携システムの導入するメリットと感ずることをお選びください

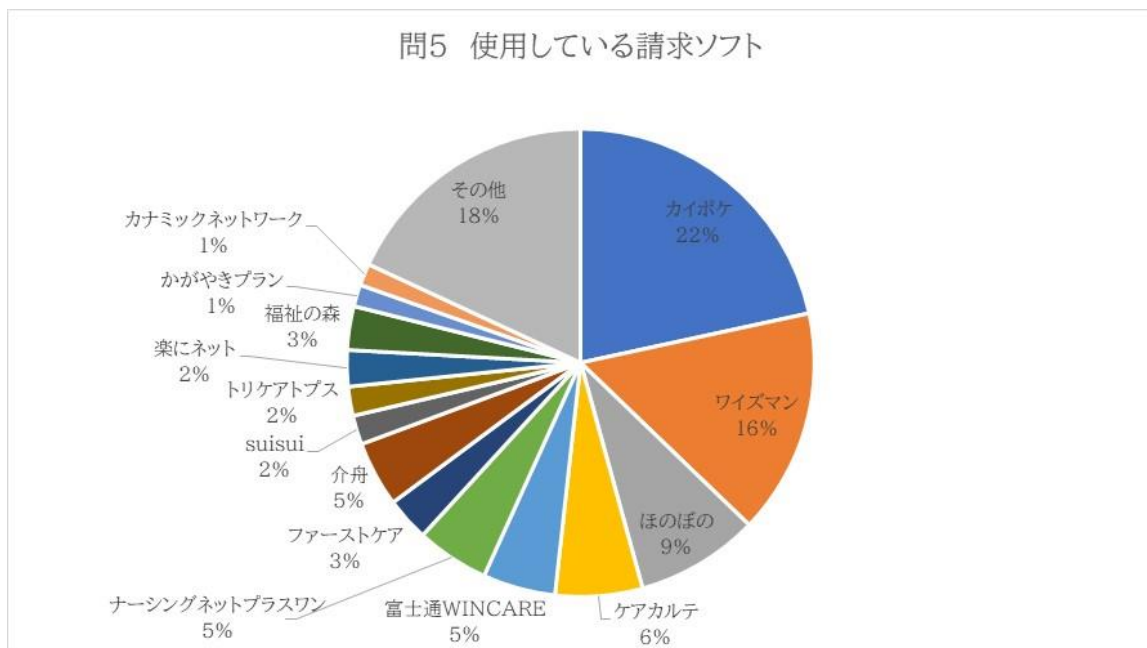
回答	回答件数
情報共有がスムーズになり、利用者が受けるサービスの質が向上する	74
従業員の業務負担が軽減される	98
通信運搬費や交通費の削減が期待できる	82
転記ミスが減少する	73
特にない	27
その他	8



問5 使用している請求ソフト名を回答してください

(使用している事業所数が2以下のソフトはその他に分類した)

回答	回答件数
カイボケ	43
ワイズマン	31
ほのぼの	17
ケアカルテ	12
富士通 WINCARE	10
ナーシングネットプラスワン	10
ファーストケア	6
介舟	9
suisui	4
トリケアトプス	4
楽にネット	5
福祉の森	6
かがやきプラン	3
カナミックネットワーク	3
その他	36



問6 ケアプランデータ連携システムの導入にあたり、気になる点があれば記載をお願いします。

(主要な意見の要点を掲載)

1. システムの導入メリットを実感できず、導入促進が必要。
2. 小規模な事業所や個人経営のケアマネージャー事業所では導入が難しい。
3. 操作や技術面に不安があり、業務負担や経済負担が増える可能性があるため導入したくない。
4. サービス事業所の対応と行政のサポート体制が重要。
5. 導入の費用対効果や具体的な利用方法について疑問がある。
6. システム操作や電子証明書の取得方法に不安があり、理解が追い付いていない。
7. 他の事業所の導入状況が分からず、利用に踏み切れない。
8. システムの不具合や情報漏洩に対して不安がある。
9. 導入研修や体験会を通じて具体的なイメージを提供してほしい。

(その他の意見)

- 人材が少なく業務改善が必要な介護業界では、使いやすいシステムが求められている。
- 居宅介護支援事業所が導入する場合、当社もそれに合わせる意向がある。
- ソフトの使用料は 5500 円であり、国保連の利用料金が高額すぎる。
- ソフトの毎月の使用料が 500 円から 1000 円程度であれば、すぐに導入する。
- 時間に余裕がないが、業務にプラスとなるか検討していきたい。
- 小規模の場合は FAX やメールで同様のことができるため、費用を払ってまで導入するメリットを感じない。
- 導入している事業所が少ないため、コスト削減や効率化の具体的な効果が分からない。
- 請求ソフトが異なると書式も異なるため、実績入力に時間がかかりそう。
- 導入していない事業所の対応も面倒で、なぜ費用を取るのか疑問。
- 全事業所が導入すれば利便性が向上すると考える。
- 導入コストが高く、導入しにくいと感じる。ライセンス料の設定を工夫すれば導入しやすくなると思う。
- 既存の使用ソフトとの違いや互換性がわからない。ソフト会社との連携も難しい。
- 導入手順やソフト会社選びは難しい。全事業所が活用しなければメリットは得られない。
- 準備に手間がかかるのではと不安。現在使用しているソフトとの連携も不安。
- 連携システムの理解や手間があり、なかなか取り組めない状況。居宅介護支援業務の効率化のためには運用の軽減や介護ソフトの共通化が必要。
- 請求ソフトが高額で共通化ができていないため、事務負担の増大が懸念される。

3. アンケート結果に対する分析

アンケート結果から見えてくるのは、介護事業所でのケアプランデータ連携システムの導入はまだ始まったばかりであり、67%の事業所が「様子見」を選択しています。具体的な導入計画をもつ介護事業所は 21%(既に導入している 14%と今年度導入予定 7%)に過ぎず、特に導入予定がないという事業所も 12%存在します。

導入障壁として最も高い割合を占めるのは、「費用に見合う効果が得られるかわからない」(30%)と「周囲の事業所が導入していない」(28%)で、介護事業所における IT 導入の課題としては一般的なものです。また、「システム操作に知識や技能が必要」(23%)という結果からは、介護事業所のスタッフが IT 機器に不慣れであることを示しています。

導入によるメリットとして高い割合を占めるのは、「従業員の業務負担の軽減」(27%)と「通信運搬費や交通費の削減」(23%)です。この結果は、デジタル化による効率化の恩恵を、事業所が認識していることを示しています。

以上の結果から、ケアプランデータ連携システムの普及拡大には、以下のような取り組みが有効と考えられます。1つ目は、システムの導入コストとその効果、具体的な操作方法についての周知です。2 つ目は、IT リテラシーの向上を支援する取り組みです。「周囲の事業所が導入していない」という障壁を解消するためには、地域や業界全体で取り組む必要があると考えられます。